

## 公開情報 2017年1月～12月 年報

### 院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

#### 【新生児集中治療室（NICU）部門におけるサーベイランスの概要と目的】

本サーベイランスの目的は、新生児集中治療室（NICU）で発生する院内感染症の発生率とその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、NICUにおける院内感染症の発生状況等を明らかにすることである。

サーベイランスの対象としている感染症は、敗血症、肺炎、髄膜炎、腸炎、皮膚炎、その他であり、対象とする原因菌はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、メチシリン感性黄色ブドウ球菌（MSSA）、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌（CNS）、緑膿菌、カンジダ、その他である。これらのデータを出生体重別、感染症別、原因菌別に集計し、NICUにおけるベンチマークとなる情報を提供している。

#### 【図表】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数
2. 菌種別感染症発症患児数
3. 感染症分類別感染症発症患児数

#### 【解説】

1. 出生体重別入院患児数・感染症発症患児数

2017年 年報（2017年1月～12月）では111医療機関からデータの提出があった。総入院患児数26,970人中、926人（3.4%）が感染症を発症した。

出生体重別の感染症発生頻度は、超低出生体重児（～999g）では1,246人中300人（24.1%）、1000g～1499gの児では1,653人中109人（6.6%）、1500g以上の児では24,071人中517人（2.1%）であり、超低出生体重児（～999g）が最も高かった。

2. 菌種別感染症発症患児数

感染症発症患児926人の感染症原因菌は、MRSA 111例（12.0%）、MSSA 99例（10.7%）、CNS 81例（8.7%）とブドウ球菌属が全体の約3割を占めた。次いで、カンジダ 44例（4.8%）、緑膿菌 18例（1.9%）と続いた。また、その他の菌種の報告は314例（33.9%）、菌不明は259例（28.0%）であった。

## 公開情報 2017年1月～12月 年報

### 院内感染対策サーベイランス 新生児集中治療室部門

#### 3. 感染症分類別感染症発症患児数

感染症発症患児 926 人の感染症分類は、敗血症 295 例（31.9%）と肺炎 206 例（22.2%）が全体の 5 割を占め、皮膚炎 74 例（8.0%）、腸炎 53 例（5.7%）、髄膜炎 33 例（3.6%）と続いた。また、その他の感染症の報告は 265 例（28.6%）であった。

2017 年のデータが未提出の 6 医療機関は集計対象外とした。下記の基準に該当する医療機関に問い合わせを行った結果、集計から除外した施設はなかった。

#### 疑義データの条件

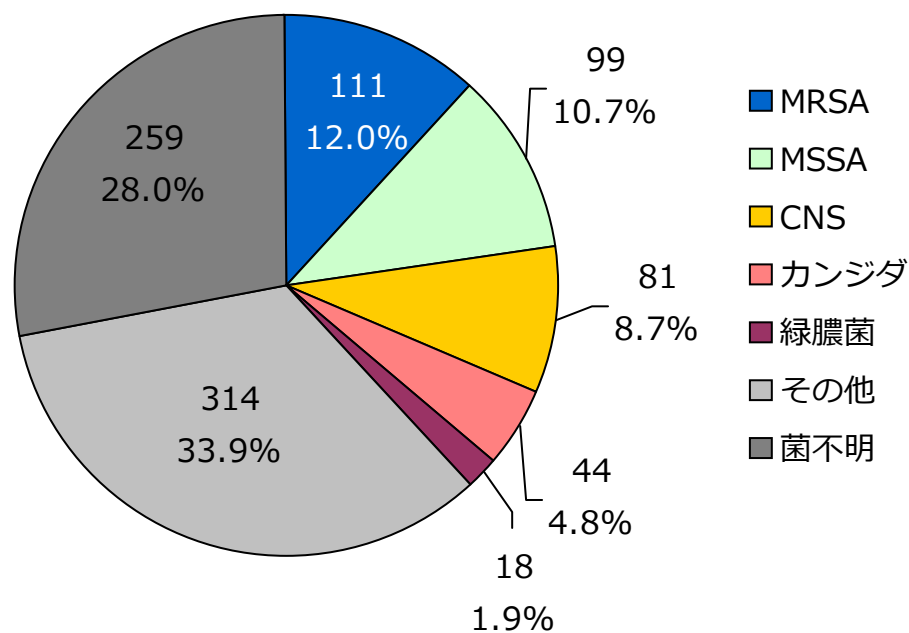
- 菌種別および感染症別の年間発生率が高く逸脱している（極値）。
- 年間入院患児数の報告がない。

## 1. 体重別入院患児数・感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症患児数	感染症発生率
～999g	1,246	300	24.1%
1,000～1,499g	1,653	109	6.6%
1,500g～	24,071	517	2.1%
合計	26,970	926	3.4%

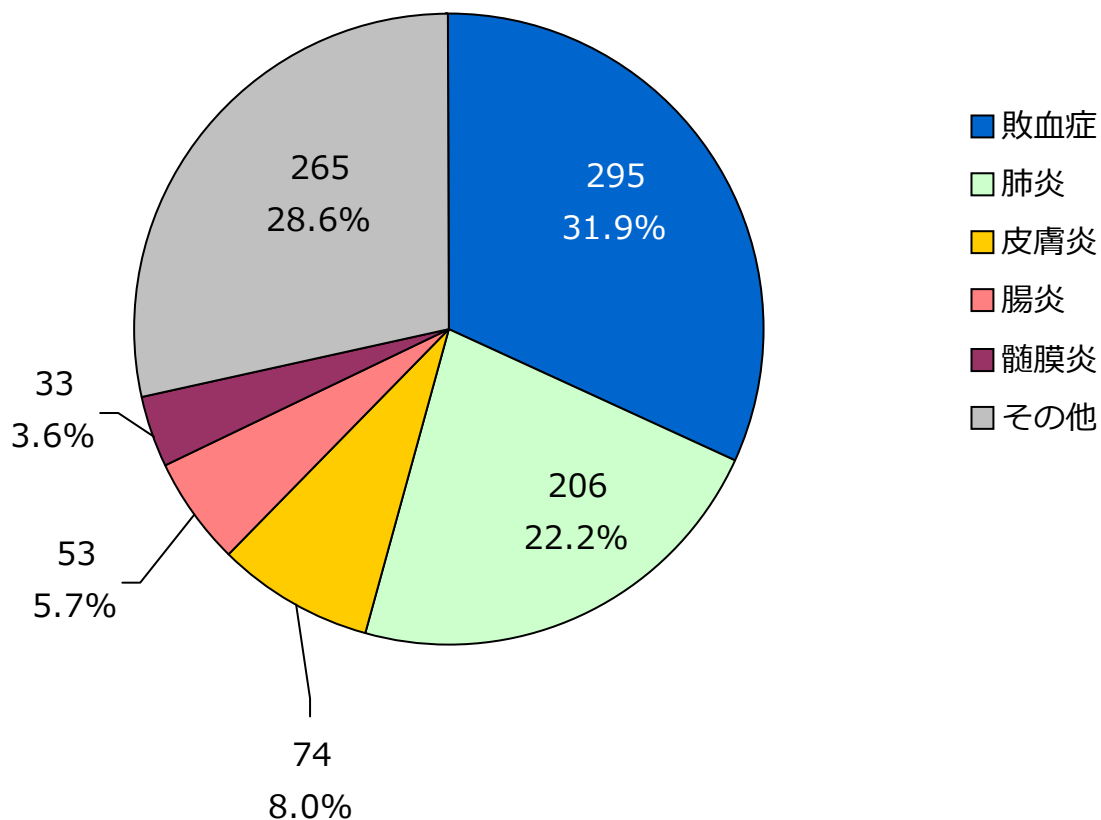
(集計対象医療機関数：111)

## 2. 菌種別感染症発症患児数 (N = 926)



(集計対象医療機関数：111)

### 3. 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 926)



(集計対象医療機関数：111)